

# 大きな動物「アショロア」そして「ベヘモ」がいたころ

環境

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

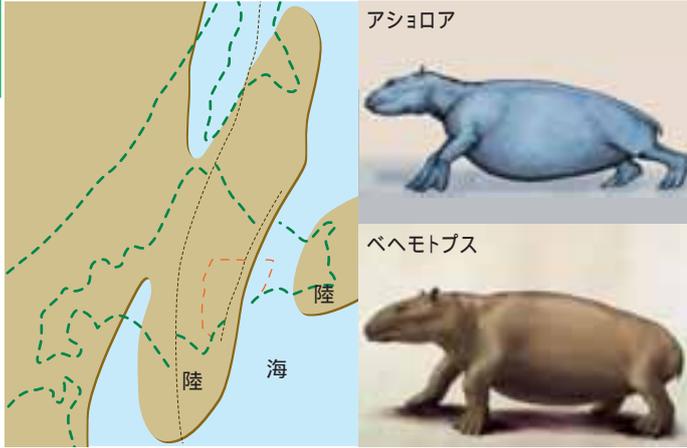
第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

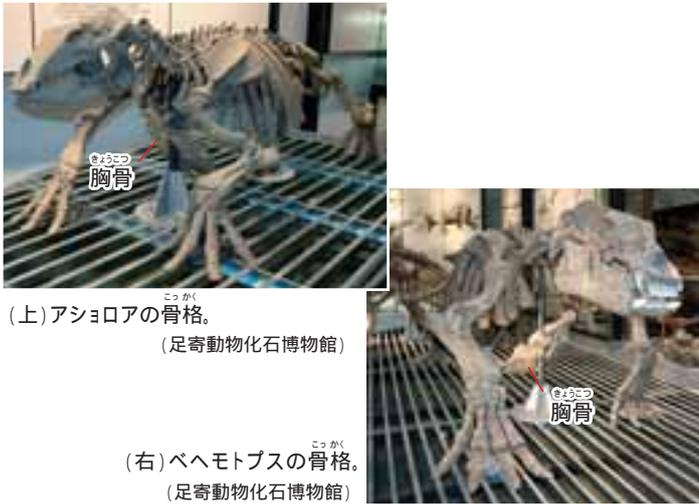
第5章 発展へ、そして未来へ

用語

さくいん



2,700万年前ころの北海道あたり。今北海道になっているところは南北にずれていて、十勝の東半分は海だった。(原図は道立地質研究所・八幡正弘氏)  
(右の復元生態図:足寄動物化石博物館蔵: 3)



(上)アショロアの骨格。  
(足寄動物化石博物館)

(右)ベヘモトプスの骨格。  
(足寄動物化石博物館)

2,900万～2,400万年前、<sup>あしよろ</sup>足寄など十勝の東半分は海(海峡)でした。日高山脈はまだできていません。北海道になる部分は南北にずれていて、十勝など北海道東部は、ゆっくりと南下を続けていました( p24)。

この海には、アショロア(およそ2,800万年前:体長約1.8m)やベヘモトプス(およそ2,500万年前:体長約3m)といった四つ足の動物や、歯のあるヒゲクジラ(およそ2,500万年前)、アカボウクジラ(およそ2,500万年前)などがすんでいました。

アショロアやベヘモトプスは海岸ぞいにすみ、水中と陸上を行き来していたようです。

## 同じ束柱類けどちがいもある

骨格標本をパッと見たところでは、アショロアもベヘモトプスも体型がよく似ています。

どちらも「束柱類」の仲間<sup>そくちゅうるい</sup>で、束柱類の特ちょうである平たくて大きな胸骨<sup>きょうこつ</sup>を持っています。

しかし、肋骨(あばら骨)の数など大きなちがい(右ページ)もあります。

アショロアは、本別などで見つかったデスマスチルスの祖先にあたり、ベヘモトプスは、阿寒などで見つかったパレオパラドキシアの祖先にあたります( デスマスチルス p28)。

## 足寄町で見つかったクジラの祖先たち

今生きているヒゲクジラの仲間(ミンククジラなど)は歯を持たず、くしのような「ヒゲ」で海水からエサをこし取って食べます。しかし、足寄で化石となって見つかったヒゲクジラの祖先には、たくさんの歯があり、ヒゲもあったようです。

この「歯のあるヒゲクジラ」は、2,400万年くらい前に絶めつしたと考えられています。

アカボウクジラは、ハクジラ(マッコウクジラなど)の仲間です。今ではハクジラだけが歯を持っています。足寄で見つかったアカボウクジラの頭骨は、平成19年現在、世界最古のアカボウクジラ化石です。それなのにその形は、今生きているアカボウクジラの頭骨とそっくりです。

(写真は4枚とも足寄動物化石博物館)



歯のあるヒゲクジラの仲間(カズハヒゲクジラ・約2,500万年前)。



今生きているヒゲクジラ(ミンククジラ)。「ヒゲ」はあるが、歯はない。



足寄のアカボウクジラ(ハクジラの仲間・約2,500万年前)。



今生きているアカボウクジラ(ハクジラの仲間)。

1 アショロア:アショロアの「アショロ」は足寄町の足寄。足寄町で見つかったことからつけられた名前。  
2 歯のあるヒゲクジラ(はのある...):足寄町の茂螺湾(もらわん)で見つかった歯の

あるヒゲクジラは、「カズハヒゲクジラ」や「モロワノケトウス」など8標本。カズハヒゲクジラの正式名称(学名)は、アエティオケトウス・ポリデントウス。「カズハ」は「数歯」、「ポリデントウス」は「たくさんの歯」という意味で、よく似た種とくら

アショロアの骨格模型を見てみよう ... 足寄動物化石博物館

足寄動物化石博物館（フォストリーあしよる）は、茂螺湾（足寄町）で見つかったアショロア、ベヘモトプスなどの束柱類やクジラ類の化石をメイン展示物として開館しました。アショロアは束柱類で世界最古の化石であり、足寄町でしか見つかりません。

そのほか、束柱類としてはサハリンで発見されたデスマスチルス（ p28・p30）やアメリカのカリフォルニアで発見されたパレオパロドキシアの骨格標本、あるいは今生きているヒゲクジラやハクジラの巨大な骨格標本などもあり、ふつうでは絶対目にするのできない、さまざまな生き物のすがたにふれることができます。

また、展示解説や化石のお話しなどをしてもらうことができ、レプリカ（化石の模型）を作ったりレプリカに色をぬったりするなど、作業の体験もできます。



足寄動物化石博物館の位置。足寄町郊南1丁目。



足寄動物化石博物館の展示室。大きなクジラの骨格に目をうばわれる。



化石と岩石を分ける「クリーニング」作業の体験。

アショロアとベヘモ、どこがちがうの？ ... 観察のポイント



アショロアとベヘモトプスの肋骨。数がちがう。円内はそれぞれの臼歯（おく歯）の複製。ベヘモトプスには「歯帯」がある。

肋骨の数がちがう

アショロアは肋骨（あばら骨）が13本（組）、ベヘモトプスは16本（組）です。本当にそうか、数えてみましょう。

ベヘモは胴長

ベヘモトプスは肋骨の数が多く、腰椎（腰の骨）も6本あるので、アショロアに比べて胴長です。

臼歯にふくらみがあるベヘモ

ベヘモトプスの臼歯（おく歯）には「歯帯」という帯状にふくらんだ所があります。アショロアの臼歯にはこれがありません。歯帯はベヘモトプスの子孫であるパレオパロドキシアの臼歯にもあります。

（写真は6枚とも足寄動物化石博物館）

べて歯が多いことからつけられた。ちなみに「モラワノケトウス（Morawanocetus）」は茂螺湾（もらわん = Morawan）からつけられた。

3 足寄動物化石博物館（あしよるどうぶつかせきはくぶつかん）：足寄町郊南1丁目。電話 0156-25-9100 火曜日休館

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展そして未来へ

用語

さくいん